

コウジン末

紅蔘

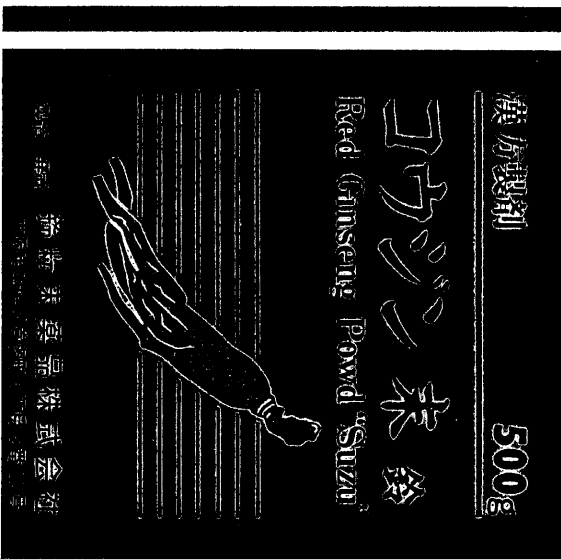
【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

- 1) 高熱のある患者
- 2) 浮腫や尿量減少のある患者
- 3) 実証者で不眠症や煩燥症状のある患者
- 4) 炎症症状のある患者（これらの症状を悪化させるおそれがある）

【使用上の注意】

- 1) 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）
 - 1) 高血圧の患者（感寒の症状のある高血圧症に限り投与してよいが、投与量は最小量とし、投与後1時間前後安静にさせる。しかし高血圧が180 mm Hg以上の者には投与を避ける。）
 - 2) 化膿性疾患のある患者（症状を悪化させるおそれがある）

- 2) 副作用（副作用発現頻度、まれに：0.1%未満、ときにより：0.1～5%未満、劇詞なし：5%以上又は頻度不明）
 - 1) 過敏症 ときに強移があらわれたことがあるので、このような症状があらわれた場合には投与又は投与を中止すること。
 - 2) 長期連用 連用により、頭痛、不眠、動悸、血圧上昇などがあらわれることがあるので、異常が認められた場合には中止すること。
 - 3) 高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので慎重に投与すること。
 - 4) 妊婦への投与 行血興奮作用があるので、少量から投与を開始し、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。



1989年12月改訂（新編式第一版）

日本標準商品分類番号	87510
承認番号	61AM4376
薬価収載	1986年10月
販売開始	1986年10月

【用法】
 密閉容器 生薬であるので、高温多湿の場所を避け、なるべく湿気の少ない、涼しい所に保管すること。

【組成・性状】

組成	紅蔘
販売名	コウジン末 錠
成分・含量 (1g中)	日局コウジン1gを含有

性状：淡灰褐色～淡褐色の粉末で、特異なにおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。
 壊壊するとき、大小不同で不整形の糸状細胞が散在し、でんぷん粒は全くのり化している。また、細胞遺体及び環紋遺体を更に黄色の塊状の分泌物を含有する薄膜細胞の破片を認める。

【効能・効果】
 漢方処方方の調剤に用いる。
 【用法・用量】
 漢方処方方の調剤に用いる。

製造番号

